

角膜不正乱視への新たな提案

強膜レンズ 「ビューノ[®] Supreme」 の有用性

2026.2/20 金

12時40分～13時30分

第2会場

Takanawa Gateway Convention Center
(Conference Hall B)

角膜形状異常は、不正乱視の影響により、生涯にわたって視力矯正を必要とする疾患です。近年、角膜不正乱視に対するアプローチの幅は多様化し、その中でも強膜レンズ*が注目を集めています。

海外の調査によると、強膜レンズを処方している施設においては、角膜形状異常を有する患者のおよそ5人に1人に対して強膜レンズが選択されていることが報告されています。また、ハードコンタクトレンズ全体に占める強膜レンズの割合は世界的に増加しており、この傾向からも、強膜レンズは眼科医および患者にとって新たな選択肢となり得る可能性を秘めています。

2025年8月に円錐角膜及び不正乱視の視力矯正が可能な強膜レンズ「ビューノ[®] Supreme」が本邦で初めて製造販売承認されました。

本講座では『強膜レンズ「ビューノ[®] Supreme」について知ろう!』というテーマのもと、不正乱視の視力矯正の現状と視力矯正方法の一つである強膜レンズ「ビューノ[®] Supreme」の仕様や装用方法、特徴についてご紹介します。また、強膜レンズの円錐角膜患者及び不正乱視眼への適応の処方におけるコツやトラブルシューティングについても、より実践的・具体的な内容をお届けいたします。

強膜レンズに関心をお持ちの先生方にとって、治療の幅が広がることを願っています。

*強膜レンズは、強膜部分でレンズを支持する大直径のハードコンタクトレンズの俗称です。



座長 堀 裕一 先生

東邦大学医学部眼科学講座 教授

1995年 大阪大学医学部卒業
1997年 国立大阪病院 眼科レジデント
2001年 Schepens Eye Research Institute,
Harvard University 留学

略歴

2006年 大阪大学医学部 眼科助手(助教)
2009年 東邦大学医療センター佐倉病院 眼科講師
2014年 東邦大学医学部 眼科学講座 教授
2024年 東邦大学医療センター大森病院 副院長

講演

1

不正乱視矯正のいま -広がる選択肢と新たな展望-

演者 高 静花 先生 大阪大学大学院医学系研究科 視覚先端医学寄附講座 准教授

略歴 1999年 大阪大学医学部卒業、大阪大学医学部眼科入局 2010年 大阪大学大学院医学系研究科視覚情報制御学 助教
2007年 米国ロチェスター大学眼科 研究員(～2009年) 2012年 大阪大学大学院医学系研究科眼科学 助教
2008年 大阪大学大学院医学系研究科修了 2017年 大阪大学大学院医学系研究科視覚先端医学寄附講座 准教授



講演

2

強膜レンズの幕開け 日本の不正乱視矯正が変わる

演者 小島 隆司 先生 名古屋アイクリニック 院長

略歴 1998年 名古屋大学医学部卒業 2012年 慶應義塾大学医学部 博士号取得
2000年 社会保険中京病院勤務 岐阜赤十字病院眼科 主任部長
2005年 ハーバード大学 Massachusetts Eye and Ear 2017年 慶應義塾大学医学部眼科学教室 特任准教授
留学 リサーチフェロー 2022年 名古屋アイクリニック 角膜診療主任
2006年 イリノイ大学眼科留学 リサーチフェロー 2025年 名古屋アイクリニック 院長

